

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- ・全学年、嘉麻市の平均目標51.5以上にする。
- ・国語・算数市販テストにおいて、低学年90点、中学年85点、高学年80点以上にする。
- ・学年家庭学習目標時間80%達成

3. 指標にむけての取組

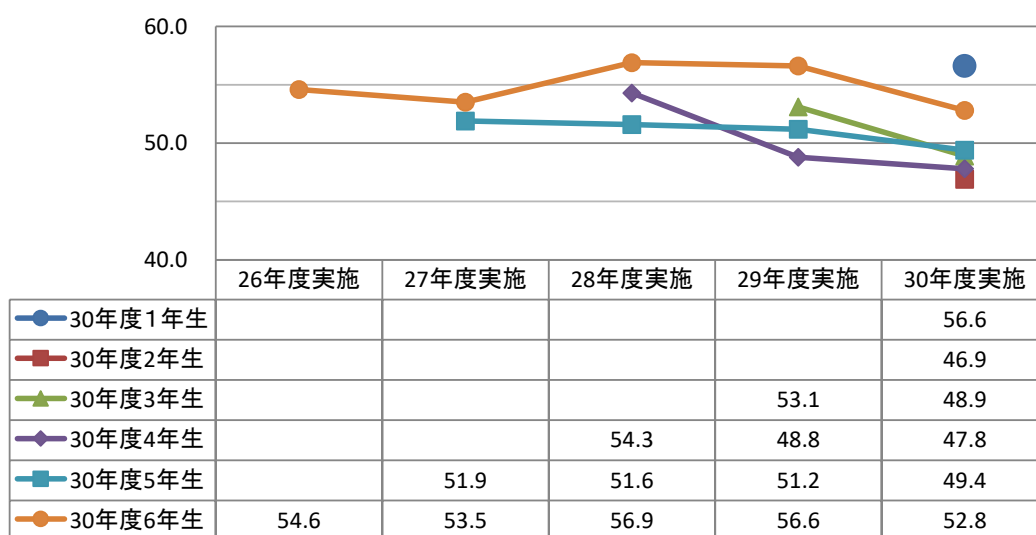
- ・主体的な学習を目指す授業改善を行う。(課題追求・学びの振り返り)
- ・単元テスト後の補充学習では、既習内容を確実に学ばせるための複数体制での指導を行う。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習の徹底を行う。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	54.2	54.9	55.0	53.8	50.4
嘉麻市(B)	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4
(A)-(B)	4.2	4.1	4.3	2.3	-1.0
標準偏差値との差 (A)-(50)	4.2	4.9	5.0	3.8	0.4

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・本年度、多くの学年で偏差値が下がっている。これは、授業の終末段階に行う振り返りの活動において、本時で学ぶべき内容を、児童が学んだこととして十分に意識させることができなかつたからであると考える。
- ・単元末テスト後の個に応じた丁寧な補充が不十分であった。
- ・82%の児童が家庭学習の目標時間を達成することができたが、個に応じた既習学習の復習など、家庭学習の内容の工夫が不十分であった。

6. 各学校における今後の取組

- ・全学級において、国語科を中心として、考えたいと思いたくなる「問い」と、学びの良さを自覚する「振り返り」がある授業づくりを行う。
- ・全職員で、本校の学力の推移や課題について共通理解を図り、全学年での取組の徹底を図る。
- ・アンダーアチーバーの児童のフォローアップのために、全学年において、算数科の授業は複数体制で指導を行う。国語科においては、モジュールの時間を活用し、言葉のプリントを用いて、言葉の力の定着を図る。
- ・単元末テストの結果をもとに、個別の復習・発展プリントに取り組ませる。
- ・上学年は、土曜未来塾と連携し、補充学習を充実させる。下学年は、放課後学習を活用し、基礎・基本の定着を図る。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
 - ◆授業研究による授業改善の取組を推進する。そのために、校内研修での授業観察指導及び研究推進員に対しての指導助言を実施する。また、学力向上推進員による若年層の教員を対象とした授業改善指導や教育論文指導を実施する。
 - ◆基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を推進する。そのために、学習サポーターを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間50日程度開塾する。